

木の家ネットの活動 10周年特集 その1 木の家ネット誕生物語



オープン直後の木の家ネットTOPページ。つくり手インタビュー第一回目の掲載が毎月であると予告されている。

- 1 2 3 4

Like 0 Post

2001年10月に誕生した「職人がつくる木の家ネット」、おかげさまで昨秋、第10期を迎えました。10周年を記念して、木の家ネットの誕生と成長の物語を、その最初から今日まで、事務局として関わって来た視点から、2回連載お届けします。

オープン前の一年間を思い出してみる

木の家ネットがWebサイトとしてオープンしたのは2001年の10月ですが、それまでには、およそ1年間の準備期間があり、木の家ネットをつくらうという動きはその前の2000年には始まっていた。

その頃、モチドメデザイン事務所（当時は持留デザイン事務所）は東京の吉祥寺で、夫婦二人（持留和也、ヨハナ）の小さなデザイン事務所を開いたばかりでした。木の家づくりどころか、建築のことはまったくの門外漢だったのですが、いろいろなき縁が重なって、木の家ネットの事務局をつとめるようになり、依頼、毎月のコンテンツ発刊のための取材と執筆、会員のみなさんのお世話、運営委員のみなさんのお手伝いを10年にわたってさせていただいてきます。

若い大工のニーズ：伝統木造を志す大工達のつながりを成長させたい



持留ヨハナ：2000年の春、大工の中村武司さんが、当時、東京に居た私達を訪ねて来てくれました。名古屋市内の大工の家の3代目にあたる中村武司さんは、大学で建築を学んだ頃は「カッコいい建築」に憧れるいわゆる「建築少年」でした。卒業して親の下で働くようになりはじめた当初は、木造にそれほど強い思い入れがあったわけではないのですが、個人で「木の家の住まい」というミニコミでついていた林孝さんが主催した名古屋でのイベントがきっかけで、次第に伝統的な木の家づくりに傾倒するようになり、「大工塾」という大工の勉強会に参加するようになっていました。



中村：「1998年に設計士の丹呉明恭さんと構造の専門家の山辺豊彦さんという大工に伝統木造を教える『大工塾』という私塾が始まったんです。僕も縁あって1期生となり、埼玉で毎月行われる一泊二日の座学と構造実験に、名古屋から選いつけました。2期目に入っても、引き続き大工塾に入出し、ともに学んだ仲間たちと互いの建前を手伝いに行き合ったり、交流が続いていました」

中村さんが私達を久しぶりに訪問してくれたのは、そんな若い大工たちの動きが始まった頃のことでした。お互いの近況を語り合う中で、自然と木の家ネットが誕生するきっかけが生まれたのです。

独立したてのデザイナーの願い：この世に発信すべきコンテンツをつくりたい



「当時、大工塾に集まっていたのは、20代から30代の若い大工。ほくのように業歴だから大工になった人、住宅メーカーに就職したものの疑問を感じてやめた人、大学院を出てから大工を始めた人、いろいろながいました。みんなエネルギーギッシュで、これからは環境面から言っても伝統的な木の家づくりの知恵を活かすべき時代なんじゃないかという熱い思いを共有していました。当時、ひとりひとはまだまだこれかならな造ばかりでしたが、つながれば道が開けるかもしれない、なんとかしてこのつながりを成長させていきたい！と思うようになったんです」

中村さんの語る伝統木造の大工の世界の話は、私達にとって初めての内容でしたが、聞いているうちにその世界に惹き込まれていくようでした。「持留さんのしているような仕事で、ぼくらのつながりをなんとかつけていけるようなことって、できないかな」そう語る中村さんを目の前に、私たちの心の中で、何か動き始めたのです。

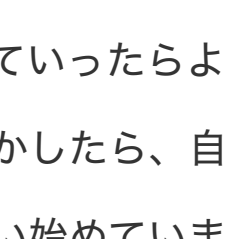


ちょうど子どもが生まれたばかりで、自然な暮らしや伝統の知恵の大切さを感じ始めていた頃でした。日本の伝統建築という、社寺や古民家のことくらいに思っていたのが、今もその知恵が木の家づくりの中に息づいていて、しかもそれが日本の山を守り、自分たちの日々の暮らしを豊かにするものだということ、気づかしながら初めて知りました。

と同時に、そうした木の家づくりが、戦後から高度経済成長期にかけて生まれてきた、経済効率を優先したより簡便な家づくりやそれを主流とする法制度などに押され、風前の灯火であることも知ることとなります。



日本の伝統の知恵を活かした木の家づくりが、今でもできる！ということすら、きちんと伝わっていない。しかも、このままでは失われていくおそれすらある。それはあまりにも、もったいない。食や健康に気を遣い、自然と調和した生き方をしたいと願う人は増えているのですから、万人にとってはいかなくても、せめて、そういう人意識をもった人たちが家をつくる選択肢として、木の家づくりが選ばれる、そうなるくらいになれば・・・と思いましたね。



持留和也：誰か伝えたいことを、人に伝える形にするのがうちの仕事です。一生のうちにできる仕事に限りがあるのだったら、今、この世に伝えるべきものを持っている人のための仕事したい。

当時、私たちは主にCD-ROMパッケージのコンピュータで見せる本のようなものを、依頼を受けてつくっていたのですが、インターネットが急速に普及しはじめていた頃で、今後、仕事の方向性をどうしていこうかと考えていた頃でした。話を聞くうちに、もしかしたら、自分にできることがあるかもしれない、持留和也は思い始めていました。



コンピュータで見せるコンテンツは、本やテレビ番組と比べれば、低予算でできる。そこに、小さくてもよい仕事をしている人が、自由な立場で発信できる可能性が生まれる。しかも、その場で流れて終わる一過性のものだけでなく、大量のデータをストックしておくこともできる。マスメディアでは主流の情報しか流れない。主流ではなくても、必要な人に伝わるべき情報はあはる。伝統木造を志す大工たちとコンピュータ、一見かけはなれているようでも、じつは、これからは必要な組み合わせなのかもしれない。

2000年当時はまだ、ひとり大工や小さな工務店がWebサイトをもつのは珍しい時代でした。大工の世界とコンピュータがどうつながるのか、その発想すらなかったといえるでしょう。自分の技術を、この大切なこと、それでいて多くの人には認識されていないことを広めるために使えるかもしれないと、持留和也は考え始めていました。



話を聞いた当初はまだ、Webサイトがメインという発想ではなかったんです。一群の木の家をめぐるストーリーを、時間軸に沿ってシミュレートする、「動かせるダイアグラム」のようなものを構想していました。家そのものの経年変化、それをメンテナンスしながら住み続けるによる、それを大工の技術、家族構成の変化にともなう住まい方の変遷、家をかたづける材になるまでの木の育成など、いくつもの切り口から木の家をとらえ、長寿命の木の家づくりのよさ、それを支える職人の技術や知恵を伝えたいと考えました。当時は、それだけのボリュームのある、多角的な表現は、容量や再生スピードなどの関係で、CD-ROM向きか、と思っただんです。WebサイトはCD-ROMに併設して「こんな木の家づくりを頼むなら、こんなために」というリストをネット上にあげておくというくらいの軽いものとして考えていました。

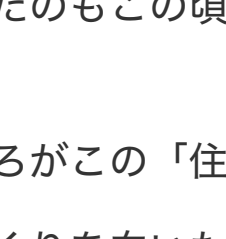
MMCAに応募するも、落選。必要な失敗

中村さんには思いつきはあっても、原資がありませんでした。そこで、持留和也は当時の通産省の外郭団体であるMMCA（マルチメディア振興基金）の公募事業に、企画を応募することを中村さんに提案しました。

持留はそれまでに「ゴッホの生涯」、「TDS（東京デザイナーズベース）の20年」というMMCAの2つのプロジェクトに、ディレクターおよびコンテンツ制作という立場で関わった経験がありました。要項を取り寄せ、大工塾に上京してくる中村さんと音引きで書類を作成し、画面サンプルや構成案、収支予算案をつくり、綿切にぎりぎり間に合ってMMCAに提出しました。

書類選考には無事「合格」、面接審査にまで残ることができました。最初は好感があった面接でしたが、途中から選行が怪しくなりました。最後の日は、面接官となっていた「有識者」と言われる数人の委員のひとりがかう言ったのです。

「もしも、そのサイト経由で施主があなたの方のグループのどなたかの家づくりを依頼し、欠陥で施主であった場合は、誰がどのように責任をとるのですか？」面接の直前に、秋田県で、自治体のからんだ欠陥住宅問題が発覚したばかりでした。受注サイトなのか、発信だけのサイトなのか、当時のWebサイトの構想は、そのあたりが不明確で、満足な受け答えに至らず、面接で不合格となってしまいました。



悔しかったんですけど、ネットを通じて人の一生を左右するほどの受注に結びつくことを発信する責任の重さを感じさせられました。今から思うと、あの時、受からなくてよかったのかも。

品確法

1985年におきた阪神・淡路大震災以来、住宅の安全性をどう確保すればよいのか、建築基準法で最低基準を示すだけでは足りないのではないかと、模索していた国は、2000年4月に「住宅の品質確保の促進等に関する法律（通称・品確法）」を施行しました。

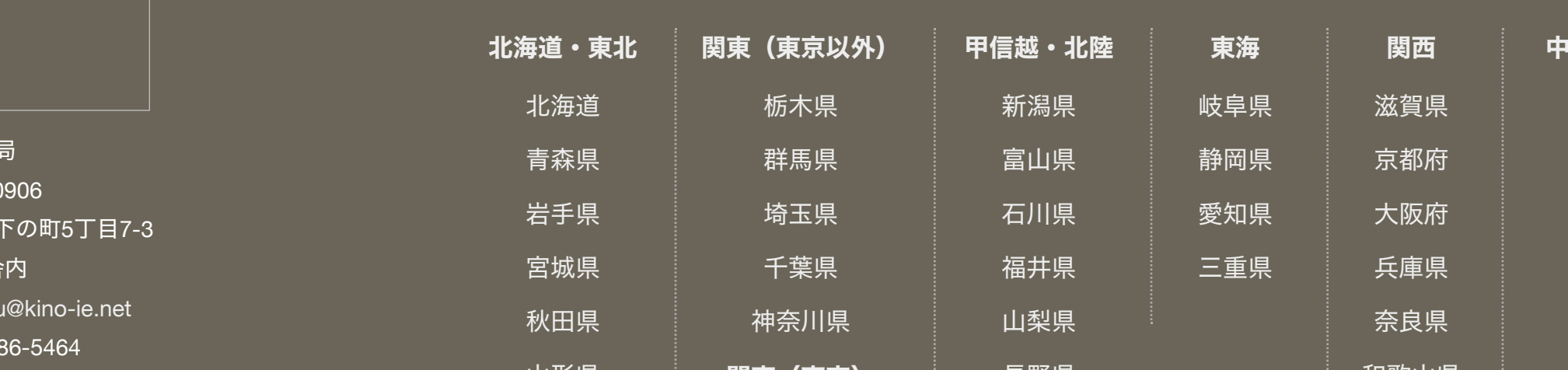
品確法とは、工務店・住宅メーカー・分譲住宅会社などの住宅供給者が、新築住宅の構造や雨仕舞について、瑕疵保証を10年間にわたって行うことを義務づけるものです。この法律の施行を裏付ける任意の制度として、財団法人住宅保証機構が「住宅性能保証制度」を始めたのもこの頃です。

ところがこの「住宅性能保証」が想定するのは、ハウスメーカーの家づくりを向いた基準であり、伝統木造の性質に合わない面も、多くありました。準備委員会の発足に加わることになるメンバーの中には、品確法、性能保証など、家づくりのあり方を規定するような流れの中で、現代の家づくりとは根本的にちがった性質ももっている伝統木造が、どう生き残っていくのだからと危機感を抱く人もいたのですが、当時はその人たちは、中村さんも持留もまだ出会ってはいませんでした。

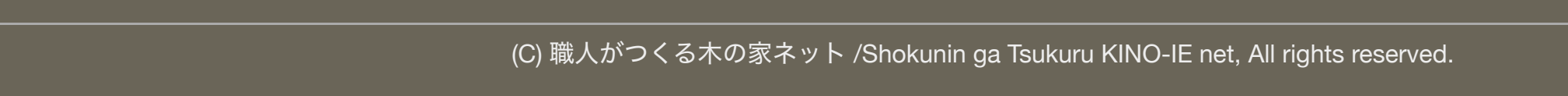
Like 0 Post

- 1 2 3 4

MMCAに提出したプレゼンボードの一部。今、見直すと、伝統構法と在来工法の混同など、理解不足の点がある。



関連する記事はこちら



里山循環大工：池山環馬（一筆建築設計） 工務店・小田典之さん（ズグ工務店）：木の家のプロデューサー 工務店・星野裕史さん（屋野土建）：木組み土壁のシニエマーの力 杜良半島アハウス「ヨツリソックス」福貴浦より 入居者募集中心！ 3.11後を生き抜くコミュニティ（大工職人）：チームで大きな仕事をしたい！

木の家イベントカレンダー 最近の特集記事 2019年6月15日 やさしくて強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室 大前俊秀さん 2019年5月15日 磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所 西岡健一さん 2019年4月20日 大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築家 福田健司さん、豊司さん 2019年4月10日 本物の家づくりを、自由に、楽しくで：株式会社木神楽 高橋一浩さん 2019年1月5日 新春特集 2018年のベストショット集

人気のある記事 伊勢神宮参宮・御礼参り：300年の大木を伐る！ 17件のビュー 冬の温熱調査会報告 15件のビュー 家のお風呂、こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー 大工たちによる「家医」の記録 14件のビュー 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記 14件のビュー 吉川 匠の熊本県川尻町 農家日記 11件のビュー 設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる家を築いて 11件のビュー 土間店、西澤正幸さん(七ツラス西澤デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー 設計士・川原真貴さん(川原建築設計)：小さな石場建ての家 9件のビュー 第11期木の家ネット総会 西蔵大倉 9件のビュー

この記事のタグ 顔の見える関係

同じタグがついた別の記事 2014年5月11日 3.11後を生き抜くコミュニティの力 社団法人 福貴浦より 2007年4月1日 設計士・吉川保さん(吉川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 2010年7月28日 きらくなたでものやチーム：家づくりを自分の手に！

2009年12月31日 木の家ネット第9期総会・熊本大会の報告 2009年2月26日 漆職人・小林広幸さん(香野建築工務)：木の家づくりにも関わる漆塗り職人を訪ねて

Table with 9 columns representing different regions: 北海道・東北, 関東 (東京以外), 甲信越・北陸, 東海, 関西, 中国・四国, 九州. Each column lists local branches or partners.

木の家ネットへの参加を呼びかける、加藤長光会長の直筆の手紙。全国の会員候補に郵送された。

木の家ネットの活動10周年特集 その1 木の家ネット誕生物語

木の家ネットの代表となる 秋田の加藤さんとの出会い

MMCAに落選。それでも企画を練り上げていく中で形がおぼろげに見えて来た「次世代の大工たちがつながる」構想を諦めきれなかった中村さんは、大工塾をバックアップしていた、加藤長光さんに相談しました。

加藤さんは、秋田県二ツ井町で、戦後に植林された秋田杉の並材を、伝統的な技術を活かした家づくりに使ってもらうことで地域を再生しようと動いている「モクネット事業協同組合」の代表です。

生活クラブ生協の組合員など、環境意識の高い都市生活者、木をふんだんに使う伝統的な家づくりを推進する設計士、木を活かした家づくりの技術をもった大工につながるネットワークが生まれ、2000年当時、それが家づくりの実践として、少しずつ形になってきたと秋田杉。施主が自分が住む家となる木を山に見に行く、そんな秋田杉産直の家づくりが始まったのです。

「職人の応援団」になりたかった 江原さんの思い

ちょうどその頃、加藤さんは、設計士の江原幸吾さんから別の相談も受けていました。それは「職人の応援団となるようなWebサイトをつくりたい！」というものでした。

阪神大震災で「古い木造住宅が壊滅的な被害を受けた」と報道されたこと、一般の人に宣伝の行き届いたハウスメーカーの家づくりが年々広がっていていること、伝統的な家づくりの仕事が少なくなり町場の工務店や職人が技術や知恵を維持できなくなりつつあること・・・そうした厳しい状況の中で、江原さんは「木の家づくりの仕事を増やすことこそが、職人の応援団としてのミッション」だと考えました。

江原：伝統的な家づくりが消滅しかねない現実を巻き返していくには、まず、そこに「ニーズ」が必要です。伝統の知恵を活かした家づくりのよさを知り、職人がつくる木の家に住みたいという人が増えないと、状況は変わりません。

加藤さんの頭の中で、中村さんからの話と江原さんからの話とが、一つにつながりました。やがて、持留も、中村さんに連れられて訪れた大工塾で加藤さんと出会うこととなりました。

発起人となるべき人への呼びかけ

似たような思いで伝統木造をめぐる状況をなんとかしようとして動いている人は、ほかにたくさんいました。加藤さんや江原さんがそうした活動を実践している人たちに呼びかけを始めました。

ここに掲載するのは、発起準備委員会が会員を募る際に用いた「主旨文」です。加藤さんや江原さんが、発起人となるべきひとりひとりに伝えたことと内容は同じなので、読んでみてください。

主旨文 (2001.10 発足当時、発起人発の呼びかけ文)

このたび、国産材を使って、職人が伝えてきた手の技を大切にしながら家づくりをすることに、国産材産地・職人・工務店・設計士が集まって「職人がつくる木の家ネット」というWebサイトを立ちあげることになりました。

これは、日本全国の地域性にねざした「木の家」を次の世代に生きた形で継承していくこと、そして年々「木の家」が作りにくくなっていく現在の状況を打開していくことを目的とした運動の端緒として、立ちあげるものです。

今をどう見ているか

もともと、家づくりは「地場」産業でした。地元の山の木で、地域に伝わる知恵をもつ棟梁が、木の家を建てる。少し前まではあたりまえだったのですが、それが今では、難しくなっています。

工業製品のような均質性をもちにくい木造住宅に対する法的な規制が年々厳しくなっていますし、大学教育では木造の技術をほとんど教えません。家づくりの現場には安価で使いやすい新建材が入り込み、下地に木を使うとしても、その木がどこから来るのか、気にもしません。

住まい手に対して

日本の風土から生まれたすばらしい木の家づくりがあること、そして、その作り手が身近なところにいる、ということ伝えていきましょう。厳しい現状の一方で、環境意識の高まりや、手仕事の復権、シンプルですぐれたものへの志向は、少しずつではありますが、確実に進んでいます。

行政に対して

地域にそれぞれに伝わる経験的な知恵に裏付けられた木の家づくりは、全国一律ではありません。それに対し、均一な網をかけて共通の基準をつくってしまいう法律にも問題があります。

木の家づくりに携わる仲間たちに対して

「木の家づくり」を実践して人たちの間での情報共有、交換等の場をつくっていきましょう。また、潜在的に、あるいは個人として、「木の家づくり」に関わってほしいという若い大工や、設計士たちもまだまだ多くはいます。

発起人が参加している運営用のメーリングリストの記録。木の家ネットへの参加者を募るために活発にやりとりをしているのがわかる。

Table with columns: Name, Email, Subject, Date, and Count. Lists members of the mailing list and their activity.

関連する記事はこちら

里山循環大工：池山琢馬 (一考建築設計) 工務店・小田貴之さん (オタ工務店)：木の家づくりのプロデューサー 工務店・星野得史さん(星野土建)：木組み土壁のミニティアの力 杜鹿半島 福貴浦より 入居者募集！！ 大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事がいっぱい!

木の家イベントカレンダー 最近の特集記事 2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を 2018年2月7日 「伝統建築工の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ 2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット

人気の記事 伊勢神宮遷宮・御始祭り：300年の大工を後継！ 16件のビュー 冬の温熱調査会報告 15件のビュー 家のお風呂 ころやって作る、ころやって保つ 15件のビュー 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記 14件のビュー 大工たちによる「家直し」の記録 14件のビュー 古川 保の熊本市川尻町 震災日記 11件のビュー 設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる家を建てて 11件のビュー 工務店・西條正幸さん(オオアラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 9件のビュー 第11期木の家ネット総会 宮城大会 9件のビュー

この記事のタグ 顔の見える関係

同じタグがついた別の記事 2009年12月31日 木の家ネット第9期総会・熊本大会の報告 2010年5月31日 設計士・吉野勲さん(劇夢舎)：家族がつどう、地域がそだつ 2004年10月28日 NPO関西善住い屋敷・曳家工事：この家が動く！ 2006年11月26日 大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 2018年1月28日 工務店・星野得史さん(星野土建)：木組み土壁のシェアハウス「ヨツパロッサ」入居者募集中!

木の家ネットの活動 10周年特集 その1 木の家ネット誕生物語

A3両面刷り三ツ折りの木の家ネット募集要項。印刷ではなく、カラープリントアウトに手折りで一枚一枚つくられた。これは第二期のもの。

1 2 3 4

Like 0 ポスト

八つちがった性質の玉をもった剣士たちが集まることで『南総里見八犬伝』のお話が進んで行くように、伝統木造や国産材をなんとかしようとしてがんばっている、さまざまな立場の人たちが、呼びかけに応じて発起人となっていきました。発起人の中には、今でも運営委員として木の家ネットの運営に携わっている方も多くあります。いくつかのグループに分けて、みなさんをご紹介します。

木住考：渡邊隆さん、松井郁夫さん、宮越喜彦さん

阪神淡路大震災以来、「伝統木造は構造的に弱い」「いや、そんなことはない」と正反対の諸説が渦巻く伝統木造でしたが、ひとつだけ言える事は「少なくとも現代の建築学では、日本の伝統木造はこれまできちんと検証されてこなかった」ということでした。「それでは、もういちど、きっちり伝統的構法を見直そう」ということで、何人かの設計者たちが震災直後、いち早く「木住考（これから木造住宅を考える会）」をたちあげました。

震災以前から、国産材の活用や伝統構法による家づくりなどをテーマに活動する個人やグループは全国にいましたが、木住考はそのような人たちの関係を近づけ、連携するきっかけを作ったようです。木住考はその3年間の活動の中で、架構の耐震性をはじめ、木のことや伝統構法の優れた点を学ぶという成果をあげましたが、その中心的メンバーであった松井郁夫さん、宮越喜彦さん、渡邊隆さんが、木の家ネットの発起人として名を運ねました。

3人は木の家ネットたちあげに全面的な協力を約束し、たちあげ時期でもっとも作業が集中した発足当時、松井事務所が4ヶ月間ほど事務局作業を担当していただきました。また、伝統木造はおろか、建築の世界のことも分からずに、「職人がつくる木の家」の魅力を伝えるコンテンツを制作する立場となった私たちに、在来工法と伝統構法の違い、木組みを成り立たせる仕口や継手、木材の乾燥と大工手刻みの仕事との関係、家づくりにおける予算配分の考え方など、多くのことを教えていただき、図面や写真素材なども提供してくださいました。

東京の木で家を作る会、緑の列島ネットワーク：長谷川敬さん、大江忍さん

緑の列島ネットワークは、山と町とを結ぶために「近くの山の木で家をつくる運動」（近山運動）を提唱することでスタートしました。木の家づくりを通して山と町を結ぶという発想において、緑の列島ネットワークと木の家ネットとは共通ですが、前者が主に消費者向けの発信であるのと比べて、後者は山の木を活かした家づくりを実践するつくり手にフォーカスをあてているのが特徴です。両者は、同じ考え方を、ちがった角度からとらえている兄弟分のようなものなのです。

緑の列島ネットワーク設立趣意書

緑の列島ネットワークは、この不健全な山の姿、山の危うさに目を向け、山の資源の循環的な活用を通して、健全な自然環境と地域経済の再興をめざしています。私たちは皆さんに山の持つ意味や資源としての価値をよく理解してもらい、緑の列島の一員であることを自覚した「緑の消費者」（グリーン・コンシューマー）になってもらいたいと考えています。そのための核となる活動として、緑の列島ネットワークは「近くの山の木で家をつくる運動」を提唱することになりました。

木材を生産する山と、その多くを住まいとして消費する町。私たちは、この山と町の人と資源を、スクールの開催や人材育成事業など実効性のある取り組みを通じて、つなぎ、むすび、互いの理解が深まるように努めます。

東京の多摩地域で木の家づくりを実践する設計士の長谷川敬さんも、緑の列島ネットワークの代表理事の一人でした。今でこそ、食などを中心に地産地消という考えはあたりまえになっていますが、長谷川さんはそういった言葉さえ知られていなかった1996年、東京近郊の林業地とのつながりから「東京の木で家を作る会」を設立し、都市と山をつなぐ家づくりをすでに実践していました。そうした運動を全国に広めるために、緑の列島ネットワークの代表理事となり、「近山運動」を実現するのに欠かせない職人の存在をフィーチャーする木の家ネットの発起人ともなったのです。

徳島スギの山主でTSウッド協同組合をつくって伝統構法の家づくりにスギを使ってもらおうと奔走していた和田善行さんも、木の家ネットの発起人となった緑の列島ネットワークの理事のひとりです。阪神大震災以後、品確法などの流れに危機感をもち、山と職人や設計士がつながることの大切さを強く認識し、徳島という遠方でありながら、木の家ネット副代表としてたちあげ準備に深くかかわりました。ほか、木の家ネット代表の加藤さん、発起人の松井さんも、緑の列島ネットワークの当時の理事でした。

現在、木の家ネットの運営委員でもある大江忍さんが代表理事をつとめる「緑の列島ネットワーク」では、伝統的構法の性能検証実験・設計法構築事業に補助事業者として取り組み、伝統構法が将来にわたって継続していけるような法整備にまでつながる活動を展開しています。「緑の列島」である日本の自然環境を守ること、山を健全に保つこと、国産材を使うこと、国産材のよさを活かせる職人が生きていけること、職人たちに伝わって来た伝統的な木の家づくりが継続できるしくみをつくること…。すべては、ひとつにつながっているのです。

「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会

ほか、それぞれの地域で活躍していたみなさん

木の家ネットたちあげの発起人会が東京で始まったこともあり、設立準備当初は、東京在住メンバーが準備に携わることが多かったのですが、いよいよ会員を募る段階まで来ると、全国でがんばっているつくり手たちにも応援を頼むこととなりました。

滋賀で「木考塾」をはじめていた岩波正さん、名古屋方面で中部自然住宅推進ネットワークをつくり、自然素材の家づくりを広めていた大江忍さん、丹羽明人さん、福井で伝統的な木の家づくりを実践する織田清さんや奈良の設計士の中村茂史さん。数々の強力なつくり手メンバーが加わり、また、つくり手ではありませんが、林業や材木業界のジャーナリストとしてフリーランスでの活動を始めていた赤堀楠雄さんも発起人となりました。

こうして発起人会は、一気に全国のつくり手によびかける広がりをもつこととなりました。2001年4月にはメーリングリストもたちあがり、東京での会議には参加しにくいメンバーとの意見交換もできるようにになりました。

Like 0 ポスト

1 2 3 4

発足当時の運営委員。主に2002年の秋田総会の時の写真から。左から赤堀さん、大江さん、加藤さん、丹羽の運営委員。主に2002年の秋田総会の時の写真から。左から赤堀さん、大江さん、加藤さん、丹羽さん、長谷川さん、松井さん、宮越さん、渡邊さん。



関連する記事はこちら

- 里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）
- 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー
- 工務店・星野将史さん（星野士建）：木組み土壁のシェアハウス「ヨツパロッチ」入居者募集中！
- 3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜鹿半島 福貴浦より
- 大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事が見たい！

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2016年12月23日 掛川総会
- 2016年6月2日 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記
- 2016年6月21日 熊本震災レポート2
- 2016年6月9日 大工たちによる「家長し」の記録
- 2016年5月21日 熊本震災調査レポート
- 2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
- 2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
- 2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る～2016.1.17 京都フォーラム報告
- 2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会～会員発表篇～
- 2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事

- 伊勢神宮運宮・御袖始祭り：300年の大木を伐る！ 16件のビュー
- 冬の温熱調査合宿報告 15件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 大工たちによる「家長し」の記録 14件のビュー
- 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記 14件のビュー
- 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
- 設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(ピオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 設計士・川端謙さん(川端建築計画)：小さな石場建ての家 9件のビュー
- 設計士・古川保さん(古川設計)：木の家づくりは仕組みづくり 9件のビュー

この記事のタグ

顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

- 2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会～会員発表篇～
- 2008年11月28日 第八期木の家ネット総会・小江戸川越大会のレポート
- 2010年7月28日 きらくなてのちやチーム：家づくりを自分の手に！
- 2004年10月25日 NPO関西木職人協会・曳家工事：この家が動く！
- 2010年12月26日 大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事が見たい！

地域別つくり手リスト	北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
事務局 〒711-0906 岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3 児島倉内 mail: jimukyoku@kino-ie.net tel: 086-486-5464	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 関東(東京) 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県



最初の数年は、インターネットに接続できない会員のために、コンテンツを記録したCD-ROMを一年毎に送付していた。これはそのラベル。

- 1
- 2
- 3
- 4

Like 0

ポスト

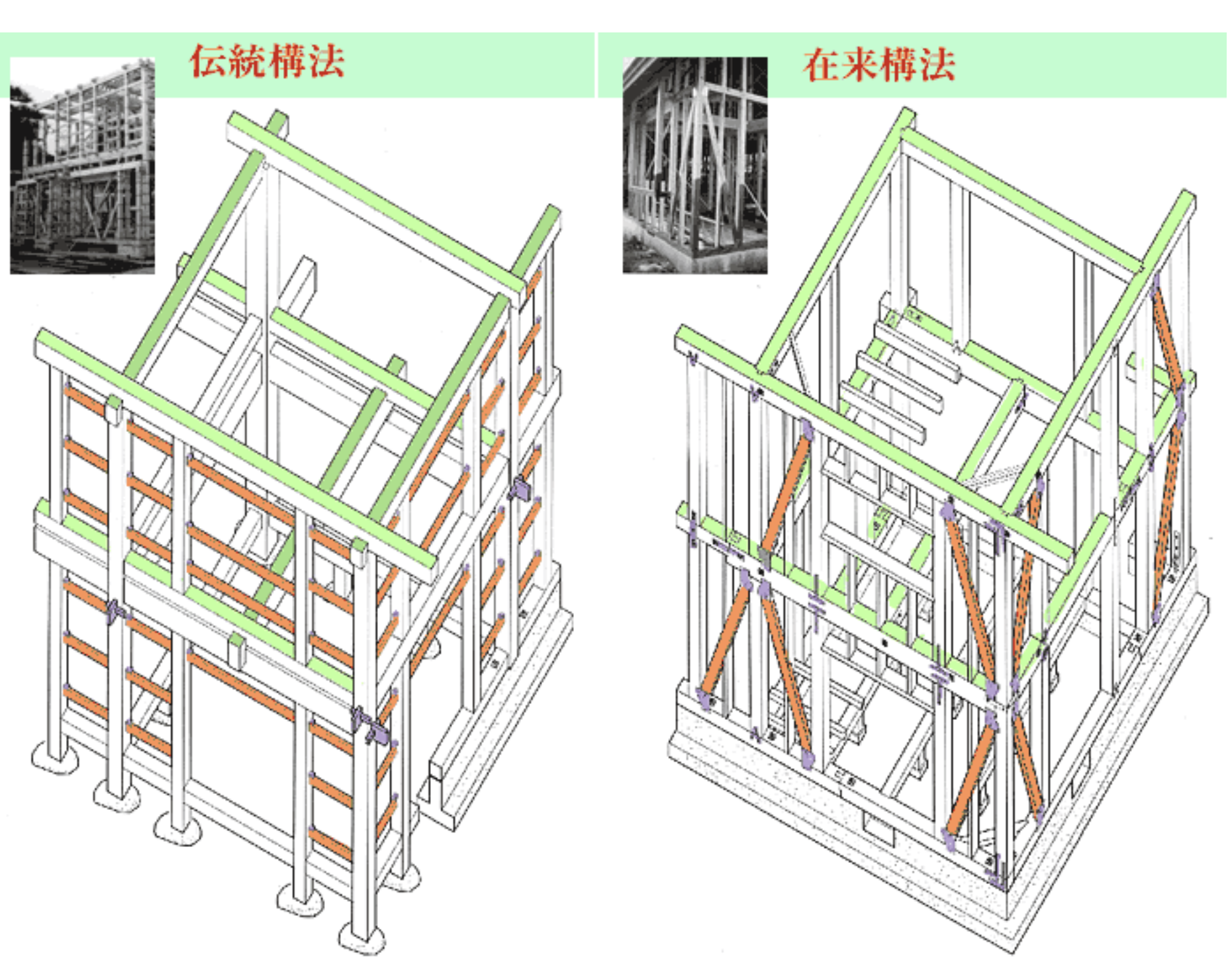
宣言文を中心に据えたコンテンツづくり

一方、サイト立ち上げのためのコンテンツづくりも進められました。発起人会の会合だけでは間に合わず、私たちが宮越さんや松井さんの事務所に通ってコンテンツとなる内容を取材し、執筆し、打ち合わせを重ねて修正し・・・という作業が繰り返されました。

建築の素人であるモチドメデザイン事務所にとって分かりにくかったのは、「在来工法というのは、日本にもともとある伝統的な家づくりとは違う」という点です。「在来工法は伝統的な構法を簡便化したもの。在来とわざわざ言うのは、ツーバイフォー工法やパネル工法など、外来のものと区別するため」という説明を聞いて、びっくりするやら、頭をかかえるやら。



私たちにとって分かりにくいから、一般の読者には、さらに分からないはず。そこを理解してもらえるようにするのが、このサイトの肝になると直感しました。



宮越さんが「木造建築事典」のために書き下ろしたこの一対の絵が、理解の役に立ちました。「そうか、こう違うのか!」と納得しかけたかと思えば、今度は「伝統的な構法と在来工法は白と黒、片方が優れていて、もう片方が劣っている、というようにスパッと切り分けられるものではなく、グラデーションのようにつながっているもの。つくり手によって、あるいは同じつくり手であっても、時と場合によって、その採用のしかたはさまざま」とか、逆に「この白黒の混ぜ方によっては、とてつもなくおかしなことになる場合もある」とも...。どれも道理であり、真実なのですが、このあたりは、今でも苦労するところですよ。

では、住まい手に向けて、国産材と職人の手による木の家づくりのことを伝えるにはどうしたらいいのだろうか? なるべく平易な文章で、その魅力を伝えたい! ということで、何回も打ち合わせを重ね、次のような短い文章を「宣言文」としてトップページに掲げることになりました。



職人がつくる、日本の木の家の家。
人に健康、環境にやさしく、いざという時に心強く、末長く愛着をもって住める家。
そんな家を求めるあなたと、つくる私たちの縁結びのサイトです。

- menu
- 「木の家ネット」って?
 - 木の家が建つまで
 - おしらせ

それぞれの単語の切れ目から、それをより詳しく説明するページへとリンクするというしくみで「定番ページ」ができました。サイトオープンから10年経った今でも、この宣言文はそのまま。「木の家づくりのよさについて伝えたい9か条」として、メニューに残っています。まだご覧になっていない方は、ぜひいちど、「木の家ネットの初心」ともいえる9か条を、読んでみてください。

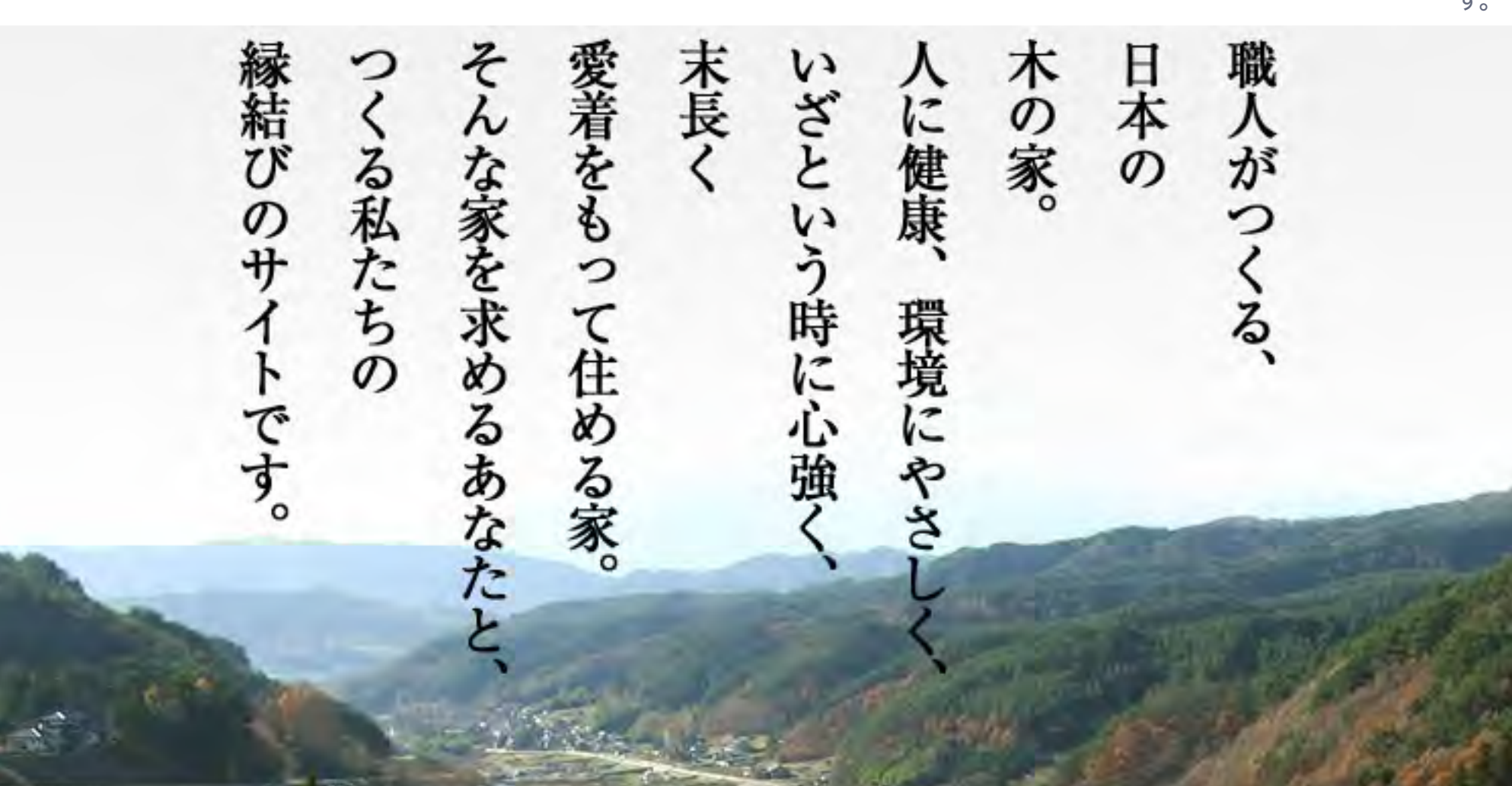
木の家ネット誕生物語の後半は、2014年の夏頃に公開の予定です。しばらく間が空きますが、お楽しみに。

Like 0

ポスト

- 1
- 2
- 3
- 4

木の家ネット宣言文の9か条(最後の1条は文字数の関係で2行にわたっています)。クリックすると最初の条文のページに移動します。



関連する記事はこちら

- 里山循環大工：池山球馬 (一峯建築設計)
- 工務店・小田貴之さん (オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー
- 工務店・星野将史さん(星野土建)：木組み土壁のシェアハウス「ヨツパロツチ」入居者募集中!
- 3.11後を生き抜くコミュニティの力 社鹿半島 福貴浦より
- 大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事をしたい!

木のイベントカレンダー

最近の特集記事

- 2015年11月9日

第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会
- 2015年9月15日

里山循環大工：池山球馬 (一峯建築設計)
- 2015年7月27日

独立電源=オフグリッドの家
- 2015年6月13日

どう? 古民家暮らしって??
- 2015年5月6日

冬の温熱調査合宿報告
- 2015年3月13日

伝統構法をユネスコ無形文化遺産に!
- 2015年1月6日

私はこう書きました! 木の家ネット会員が出したバブコメ
- 2015年1月1日

改正省エネ法についてのパブリックコメントを出そう!
- 2014年12月12日

改正省エネ法で、土壁はどうなる?
- 2014年11月26日

無くなつては困る! 刻み電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御袖始祭り：300年の大木を伐る! 16件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 冬の温熱調査合宿報告 15件のビュー
- 大工たちによる「家直し」の記録 14件のビュー
- 込み栓角ノミ復活! 松井鉄工所訪問記 14件のビュー
- 設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して 11件のビュー
- 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(ジオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 9件のビュー
- 第11期木の家ネット総会 宮城大会 9件のビュー

この記事のタグ

顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

- 2008年9月27日

鈴木祥之先生(立命館大学教授)：伝統構法で使える耐震設計法を探る
- 2010年12月26日

大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事をしたい!
- 2004年10月25日

NPO 関書賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く!
- 2010年5月31日

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族がつどう、地域がそだつ
- 2004年11月25日

木の家ネット 第四期総会報告